

紅緑偏「滑稽俳句集」を読み解く 5

2009.10.05 （聞き手 高橋素子）

高橋 これまで、「表題」「凡例」「自序」「目次」そして「春の時令（年中行事）」まで、「百八年前の滑稽句」を七十句程、面白く読み解いて戴き有難うございました。

前々回では、「百八年前の滑稽句は出来事を描いているが、単なる報告ではなくそこに詩があり滑稽がある。」と素晴らしい結論を、又、前回では、「会長ご自身の滑稽句にもかなり共通した可笑しさがある」と結論付けられましたね。

でもまだまだ句は山ほどありますよ！（笑い）
毎回どんな名言を聞かせて戴けるのか楽しみに
なって参りました。

会長 名言の迷言となる万愚節ですね。

高橋 ふふふ！始めから面白いですね。

それでは、今日は「春地理」の部門の「雪解」この句から始めさせて戴きますね。

☆ 門前や杖でつくりし雪解川 一茶

昔、子供の頃私もこんな事した様な記憶が・・・

会長 雪解川を杖でつくりましたよ。
というのではなく、雪解川になってしまったことへの驚きがあるのです。
それも家のすぐ前のことですから・・なんというか、杖で遊んだだけなのに自分にもこんなことができたという喜びがありますね。驚きは滑稽の仲間です。

高橋 成る程！驚きは滑稽の仲間なんですね。
迷言？でなく・・名言です。（笑い）
次の句は「苗代」、子規の句ですよ。

☆ 苗代や許六の蛙 史邦の亀 子規

許六の蛙？史邦の亀？何でしょう！
ご説明下さいね。

会長 許六には蛙の、史邦には亀の句があるんですね。
ふたりは芭蕉の門人ですがそれぞれ代表句なんですね。

「苗代やうれし顔にもなく蛙」（許六）

「泥亀や苗代水の蛙づたひ」（史邦）

を踏まえています。苗代には蛙も亀もいました。
史(ふみ)邦(くに)（～貞亨二（一六八五）年）
は京都蕉門の一人。『嵯峨日記』執筆時の落柿舎滞在中の芭蕉を訪問したこともあります。
蛙と亀が苗代にいたが蛙は許六を、亀は史邦を思い出させるということでしょう。

高橋 ☆馬が尻をひりながら行く春野哉 炎天

余り上品とは言えない句もありますね。

会長 昔は「屁」が結構、文学になっていましたね。
屁は恥ずかしいものですがきわめて平等なんです。貴人、庶民、美人、醜女を問わず、みなさん
やらかすものですが・・・
一瞬にして身分の隔てをなくしてしまう可笑しさ
です。馬も屁をひる・・・それが可笑しかったので
すね。
その可笑しさが匂ってきます。

高橋 屁が文学になり、可笑しさが匂う？流石・・・（笑
い）
「春地理」の句はこれで終わりです。

次は「春植物」の部門に進みますね。季語は
「梅」流石たくさんの句が並んでますよ。

☆ 梅の花赤いは赤いはあかいはな 惟然

☆ 梅折れば鼻を差し出す弟哉 沽徳

☆ 色も香もしる鳥そ知る梅の花 也有

☆ 竹にいざ梅にいざとや親雀 一茶

最後の句には直接関係ありませんが、面白い話
が・・・京の毘沙門堂の「梅の間」の襖絵には、正
面東に「梅に鶯」、右南側に「竹に雀」の絵
が・・・ここは暫しの時を客が待たされる待合室
ですが、待てど暮らせど主人は現れず。

よくよく襖の絵を見れば、「梅には鶯でなく山
雉」
「竹には雀ではなくひよどり」が描かれているの
です。つまり「鳥が合わない」→「取り合わな

い」との主人の意なのですね。

昔の人の婉曲表現の知恵には舌を巻き、恐ろしさ
さえ感じますが・・
あら、また脱線、いつもの癖が・・（笑い）
ごめんなさい。

会長 いいですよ。
脱線を歓迎。鉄道以外なら・・ですが・・

梅の花赤いは赤いはあかいはな・・
最後の「はな」は「花」とも「感嘆詞」とも読め
る可笑しさですね。

鼻を差し出す弟・・まずは花を視覚で愛でる
匂いはそのあとでしょう それが弟は匂いに直行
したわけでそれが可笑しいのですね。

しる鳥ぞ知る・・知る人ぞ知る・・ですね。
擬人化です。そこが可笑しい

竹にいざ梅にいざ・・何かにつけて出かけたがる
人と同じように親雀も・・ということですね。

高橋 梅の句つづけますね。

☆ 招牌や銭とる家の梅の花 鳴雪

☆ 梅の花貧乏神の祟りけり 漱石

☆ 移り住んで柿くれそうな隣かな 竹の門

☆ 白梅やいつも銭なき俳諧師 荒井蛙

招牌は看板ですね。それにしても平凡な句が続く
ような気もしますが・・

会長 それは読み方ですね。古人が何に可笑しさを感じたのか汲みとろうとすれば何処かにあるのです。そこが少しわかりにくいのです。

梅の花貧乏神の祟りけり

とりあわせの句ですね。あの清清しく白い花は黄金の毒々しさとは大違い清貧の美しさです。漱石は梅の花の清楚を褒めているのです。

移り住んで柿くれそうな隣かな

柿がたわわに・・・塀の外まで乗り出していたのでしょう。お隣に住んだらもらえるかも・・・正直な可笑しさです。

白梅やいつも銭なき俳諧師

このとりあわせも自嘲というかたちで清貧を賛美する表現で、漱石の手法と、共通しています。

高橋 すみません。私の鑑賞力の問題でした。（笑い）では、次の季語「椿」にゆきますね。

☆山茶花は嘘であつたと椿かな 也有

☆椿蕾んで手水鉢に水なき落ち葉 虚子

☆ちるをすぐ掃かれたるをすぐちる椿 紅緑

一句目は、散った花の状態で山茶花か椿か分りますよね。山茶花は「花びら」が散る。椿は「花が丸ごと」落ちる。山茶花と思っていたら椿だった

ということですね。

二句目は椿と落ち葉で季語が二つある様にみえますが、落ち葉は年中あるので構わないのですね？

会長 落葉はからからに乾いて季節感を失っています、ましてや 椿が蕾み・・・春の直前ですから、季節的には合っていますね。

ちるをすぐ・・・これは回文ですね。

ちるをすぐ掃かれたるをすぐちる椿ちるをすぐ掃かれたるをちる椿・・・その面白さです。

高橋 文？成る程、面白いですね。
次の季語は「若菜」と「木の芽」ですよ。

☆ 傘持はつくばいなれし若菜哉 其角

☆ 伐り下せしきの谷川に浸されて芽をふく
虚子

会長 若菜摘みは蹲ますね。
傘持ち・・・は沢山傘を持っているということではなく「おいらん道中」などでご覧になったことありませんか。新造や太夫の後ろから傘持ちが傘をさしかけているでしょ。あれです。
傘持ちは腰をかがめたりすること多いですからね

高橋 次の季語は、「柳」です。

☆ 盗人の跡で棒ふる柳かな 希因

☆ 曲れるをまげてまがらぬ柳かな 其角

☆ 武者繪にはあしらひにくき柳哉 也有

☆ 横にして見せうと風の柳かな 也有

☆ 出る杭をうとうとしたりや柳かな 蕪村

☆ 柳からももんぐあアと出る兒哉 一茶

☆ けろりくわんとして鳥(烏?)と柳かな 一茶

☆ 首縊る枝振もなき柳かな 紅緑

会長 盗人の跡で棒ふる・・・・・・

「棒」は庶民の防犯用具。泥棒が去ったあと、柳が揺れている。柳を棒に見立てたものです。

曲れるをまげてまがらぬ・・

これは「言葉遊び」ですね。私の句に「しょうがない奴でもしょうが掘るでしょうが」という句があります。

横にして見せうと風の柳かな。

柳を擬人化していますね。

強い風が吹けば横にもなる・・それを自分の意思でやってみようという柳です

出る杭をうとうと・・「出る杭は打たれる」は諺です。柳の枝の動きを誇張したのですね。

柳からももんぐあアと出る兒哉

「ももんぐあア」は「ももんが」という小動物のこと、それを子どもの動作か口上と重複させている。

「けろりくわん」として・・一茶の句ですが擬人化の句。しかも「けろりくわん」として擬態語を

使っている。ですね。鳥と柳がけろりんくわ
ん・・

首縊る枝振もなき柳かな 紅緑

これらの作品の中では、この紅緑の句が抜群ですね。擬人化の句です。
柳の枝で首を縊れるわけがない。
誰でもわかることを敢えて言う可笑しさですね。

高橋 柳、知らない人？にも柳の枝の姿が面白く分かりますよね。そんな人いませんか？

次は花「櫻」です。うーん！流石、日本を代表する花ですね。物凄い数の句が記載されていますよ。

☆咲くからに見るからに花の散るからに 鬼貫

面白いけど経過では？

会長 経過ではなく「理屈」の面白さ。
咲くから見る。見るから散る。と

高橋 **☆櫻咲く頃鳥足二本馬四本 鬼貫**

櫻が咲かなくても鳥の足は二本、馬は四本ですよ
ね？

会長 鳥足二本馬四本・・鬼貫の代表句として海外でも紹介されているものですが、櫻咲く頃・・足二本馬四本は当たり前のこと。

桜咲く頃は浮ついてしまって、このあたり前を失念するものですよ・・・自戒の句なんです。

高橋 えっ！鬼貫の代表句？自戒の句・・・！お聞きして見るものですね？（笑い）

☆油断して花になりたる櫻哉 樗良

この句はいかがですか

会長 桜は蕾から花になる経過をやれ三分咲きだ五分咲きだと楽しむものです。油断しているうちに一気に満開になっちゃったという悔しさの句です。油断したのは作者ですが櫻の木が油断したとする可笑しさです。

高橋 作者の油断を桜の木の油断の所為に・・・そこまで深く鑑賞すると面白いですね。（笑い）

☆両の手に花と酔人や山もどり 也有

会長 酔っぱらいの面倒を見ているのですが花と人を対等にしているところがよろしい。逆に言えば人間をモノ扱いしている、それが滑稽なんですね。

高橋 こちの花咲いて隣に酔人哉 也有

東風の花・・・ですね。「こちら」と「となり」地口の句ですね。

無筆には縄張りしたる櫻哉 也有

無筆・・読み書きが出来ない人には、「入るな」「櫻折るな」など書けないので、縄張りをしているのですね？

会長 その通りですね。

高橋 ☆さりながら腹はへりけり山櫻 東緒

正に花より団子ですか。

☆たのまれて櫻見に行く男かな 春坡

三部咲きとか七部咲きとかお花見の時期を調べて報告する役目を頼まれたのですね。

会長 高橋さんの解説の通りですね。

高橋 櫻の花」の句続けますね。

☆我庵は都の辰巳花もなし 鳴雪

辰巳は十二支で表した方位で南東ですね。
古今集に

☆わが庵は都の辰巳鹿ぞ住む世をうち山と人はいふなり

という喜撰法師の有名な和歌がありますが、これを踏まえた句なのですか？

会長 江戸で辰巳即ち東南の地は深川で、深川芸者を辰巳芸者ともいったのです。
吉原の遊女とは異なり、粋なんですね。
私の記憶では(笑い)そういうところに住んでいるのに「花もなし」と自嘲している。
子規が入寮した常盤会宿舍の舎監をしている謹言
実直な鳴雪の句だから可笑しいです。

高橋 えっ！喜撰法師でなく、粋な深川芸者のことだったのですね？（笑い）
次に参りま～す。

☆牛の角すほめて通れ花の中 鳴雪

満開の花を牛の角が散らすおそれがある・・・誇張ですね。

☆花に雪駄チャリリと人の機嫌哉 子規

雪駄の音が人の花に浮かれる人の機嫌の度合いを表しているわけですね

☆もういいよと花の木下やかくれんぼ 紅緑

☆下駄雪駄推すな推すなと花の人 紅緑

このあたりはわかります。

☆いなうとな其れ又花のちるはちるは 紅緑

これはご解説お願いします。

会長 「いなう」は「去る」ですね。
存分に花を楽しんで・・・立ち去ろうとしたらまた
花が散る、花吹雪なんですね。
紅緑の去るに去れずの花吹雪、ということです。

高橋 それでは、恒例の同じ季語での会長の俳句を拝見
させて戴きますね。

★ 水と水ぶつかりあつて雪解川 健

★ 自転車を乗り捨て春野らしくなる 健

★ 紅梅の花びら疲れやすきもの 健

★ 竹林と春の蚊の刺す竹の秋 健

★ 木偏に春椿は春の花だから 健

★ 水面こそばゆし柳にくすぐられ 健

★ 字余りとなりたる芽柳の俳句 健

★ 散るさくら一途に先をあらそへる 健

★ 桜切る馬鹿の一枝もらひけり 健

ご披露戴いたこれらの句の解説と百八年前の滑稽
句に通じる点、相違点等で何か思い付かれたこと
があれば教えて下さいね。

会長 水がぶつかりあう・・・誰か作っていないでしょうか。無

ければオリジナルですが。

乗り捨てると春野らしくなる・・・非科学的ですが、自転車が無造作に倒してあるのですね。浮かれ気分の表現です。如何にも春野らしくなる。

花びら疲れやすきもの・・・梅の花はすぐに錆びてしまいますね。梅見客の目垢で汚れるし、疲れやすいのです。

竹林と春の蚊の・・・地口です。
竹林とチクリです。地口です。
親爺ギャグとは言いません。
木偏に春椿は春の花だから・・・文字の発見ですね。

水面こそばゆし柳にくすぐられ
擬人化の面白さです。

字余りとなりたる芽柳の俳句
芽柳の形状を字余りとしたものです。
だから句も字余りとなりやすい。

散るさくら一途に先をあらそへる
擬人化です。

桜切る馬鹿の一枝もらひけり
桜切る馬鹿梅切らぬ馬鹿・・・という諺があります。
桜は切り口から腐るので切らないんです。
それを切る馬鹿がいる。その馬鹿から花の枝を貰うのは
花が美しいからなんですね。
つまり諺をうける可笑しさの句です。

高橋 うーん！素晴らしい！面白い勉強が出来ました。
次回の学習が楽しみです。

それに読破した暁には、更に一段と素晴らしい現代滑稽句の目指す方向をご教授戴けるのでは
と・・・今からわくわくしています。

会長 惑惑と戸惑ひつつも湧く期待です

(2009年10月号)